

イスラームの信仰を支えるモノやツール①

天理大学人文学部准教授

澤井 真 Makoto Sawai

紙かオンラインか

3月26日の天理教教会本部の月次祭後、知人の教会長から拙稿についての感想を頂戴した。その方は、本誌『グローバル天理』を紙媒体で読んでいるようだが、読者の多くはおやさと研究所のウェブサイトアクセスして、お読みいただけることをご存知だろう。筆者はウェブサイトで読むというよりも、過去に自分が書いた内容を確認するために、ウェブサイト版『グローバル天理』にアクセスしている。一方で、紙媒体というモノがもつ利点もある。自分が読み終わった後は誰かに渡しやすいし、気になった記事は取りおくこともできる。

近年、天理教の三原典についても、ウェブサイトやスマートフォンのアプリケーションで参照できる状況にある。もちろん、論文などで引用する際には紙媒体の「おふでさき」や「おさしづ」で最終確認を行うが、とっさに確認したい場合や、検索したい語彙を調べる場合には非常に便利である。一方で、紙媒体から成る天理教教義及史料集成部編『おふでさき索引』（1928年）は異なった表記が網羅的に掲載されているため、自分が検索した語彙しか出てこないアプリケーションによる検索よりも精度は高い。双方に利点があるため、それらを上手に使いこなすことで新たな知見を得ることも多い。

情報技術を用いて人文学研究の新たな地平を拓こうとする分野は、「デジタル・ヒューマニティーズ」と呼ばれている。膨大なテキストデータであっても、それらをデータとして打ち込んでしまえば一括検索も可能であるし、複数にまたがるテキストを横断しながら研究を行うことが可能となる。事実、インターネット上では著作権が切れた書物が公開されていて自由に閲覧することができるようになったし、音声データがインターネット上に公開されている。また、さまざまなソフトの普及により、それまでは図示が難しかった系譜や知的ネットワークを立体的に描くことができるようになった。

急速に普及するAIにテキストデータを学習させて、AIに答えを導かせようという動きもある。京都大学の熊谷誠慈らの研究チームが開発した「ブッダボット」は、仏教の経典を学習させることで、質問者の悩みに回答する対話型AIである。AIの能力はまだ未知数であるが、能力の向上が目覚ましい。人間には経典の記憶には言語的にも限界があり、さまざまな解釈まで網羅的に覚えていることはできない。その一方で、日進月歩で学習するAIによる回答は、いずれ僧侶による回答を上回るのではないかと指摘されている。AIを脅威に感じる僧侶は少なからず存在するだろうが、AIでは肩代わりできない側面があることも事実であろう。

イスラーム研究では、現地へ行って取得してきた写本などが少しずつオンライン化されることで、インターネット上で取得することができるようになってきている。そのため、少しずつではあるが、イギリスやトルコへ出向かなくとも、オンライン上でデジタル資料を手に入れることができつつある。

信仰の学びで用いられるアプリケーション

イスラームにおける伝統的な信仰の学びは、家庭での教育に加えて、モスクでウラマー（知識人）の説教を聞いたり、クルアーン学校へ通ったりするなかで培われてきた。しかしながら、

そうした学びの場が近くにあるとは限らない。郊外に住むために通うのが難しいという場合もあれば、自分が住む地域にはムスリムのコミュニティがないという場合もある。また、月謝が高く、子どもを通わせることが難しいという場合もあるだろう。

しかしながら、インターネットが普及し、スマートフォンやパソコンを通して多くの情報にアクセスが可能になった結果、学びの方法が変わりつつある。たとえば、Tarteel AI Quranというアプリケーションは、スマートフォンが備えている録音機能を使いながら、AIによるアラビア語の発音矯正を受けることができる。同様の仕組みは、スマートフォンを用いた英語学習など多言語にもあり、日本でもテレビCMが頻繁に行われている。このアプリケーションでは、単に誤った箇所が示されるだけではない。クルアーンに関する解釈が数多く掲載されているため、何段にもわたる本棚で埋め尽くされてしまうクルアーン注釈書（タフスィール）はもはや不要となる。それだけではなく、知りたい情報にすぐアクセスすることができるという利点がある。

さらに、My Quranというオンラインサイトでは、対話型のAIを用いてイスラームについて学ぶことができる。たとえば、「イスラームとはなにか」と英語で質問を入力すると、「本当にアッラーの御許の教えは、イスラームである。啓典を授けられた人びとが、知識が下った後に相争うのは、ただ彼らのあいだの妬みからである。アッラーの印を拒否する者があれば、アッラーは本当に清算に迅速であられる。」（クルアーン3章19節）という一節のアラビア語と英語訳がすぐに表示される。さらに、利用者はこの一節の解説をまとめられた状態で読むことができる。このオンラインサイトは無料で利用できるが、結果的に自らの信仰を深めたい者だけではなく、イスラームという宗教を知りたい者たちも活用することが可能である。

イスラームには、聖典クルアーンに関わって多くの議論や解釈の蓄積がある。理解の仕方が1つではない以上、これまでにどのような解釈がなされてきたかを知ることが、信仰の言葉をより豊かにするうえで重要であるはずである。AIによる相談や学びで得られるものが全てではないとは言え、情報をめぐる今日の状況は、従来とは大きく異なっている。慎重であることは決して悪いことではないが、結果的に情報発信という点では他に後れを取ってしまう可能性も否めない。新聞やラジオ、テレビなどは、これまで人々に情報を運んできたメディアであった。今、私たちはこれらのいずれよりも巨大なメディアが信仰生活のあり方を変えていく様を目撃しているのである。

[参考文献・ウェブサイト]

天理教教義及史料集成部編『おふでさき索引』天理教教義及史料集成部、1928年。

My Quran「<https://www.myquran.online/>」（2025年4月7日アクセス）



Tarteel AI Quranのアプリケーション